

## 出入国在留管理庁ヒアリング

外国人の高校生・若者の現状と課題

「誰もが取り残されない」学びの場・社会づくり

一般社団法人kuriya  
代表理事 海老原周子  
contact@kuriya.co

1. 団体紹介・自己紹介
2. 現状と課題：
  1. 在住外国人の高校生・若者の状況について
  2. 新型コロナの影響について
3. 今後の支援：活動を通じて見えてきたニーズ
4. 質疑応答

# 団体紹介・自己紹介

## 団体紹介

### たくさんの可能性を持つ外国ルーツの若者が輝ける社会へ

対 象：16歳～26歳の外国籍等の若者

設 立：2009年より活動開始、2016年に法人化

活動内容：①多文化居場所作り ②多文化キャリア教育 ③政策提言

#### 活動実績

参 加 者：約300名（中国、フィリピン、ネパール、ミャンマー、タイ、インドネシア、ブラジル、日本など）

実施地域：東京を中心に、神戸、茨城、愛知。定時制高校、ブラジル人学校、ネパール人学校で実施

#### 代表略歴

慶應義塾大学卒業後、(独)国際交流基金・国連(IOM国際移住機関)で勤務。2009年に外国籍の中高生と地域とをつなぐ多文化理解ワークショップを立ち上げた事をきっかけとして、2016年に一般社団法人kuriyaを設立。外国籍等の高校生のキャリア育成に着手し、定時制高校での居場所づくりを通して、中退防止やキャリア支援に取り組んできた。また、多文化理解教育として、映像や写真を通じた外国籍等の子どもや高校生の表現活動も行なう。東京を中心に、これまで100回のワークショップを実施。

## 団体紹介 | 活動沿革

### 行政連携

2008年－2011年 (独)国際交流基金先駆的・創造的事業

2012年－2013年 新宿区協働事業

2016年－2017年 東京都・アーツカウンシル東京 アートポイント計画事業

### 企業連携

2013年 JTBグループ CSR事業「杜の賑わい」「地球いきいきプロジェクト」

2013－2016年 アサヒビール株式会社 CSR事業 Asahi Art Festival採択

2015年 エヌエヌ生命 CSR事業「未来の社長」賞採択

### 助成事業

2011年 公益財団法人日本教育公務員弘済会「子ども国際交流活動」助成事業

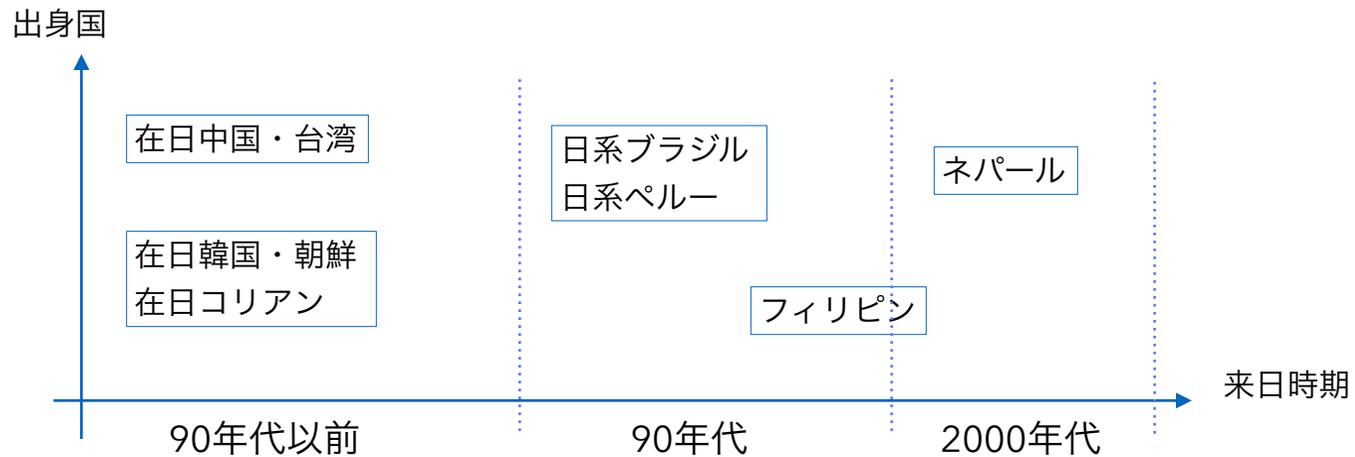
2012年 公益財団法人麒麟福祉財団「麒麟・子ども・力」応援助成事業

2013年 子ども夢基金「子どもの体験・読書活動」助成事業採択

2015年 東京都 芸術文化による社会支援助成事業

2016年 トヨタ財団 国際助成事業

## 「外国人」の中にも多様性がある



どこから来たのか？

なぜ来たのか？

いつ来たのか？

何をしているのか？

(中国、ネパール、ベトナム、ブラジル、ペルー・・・)

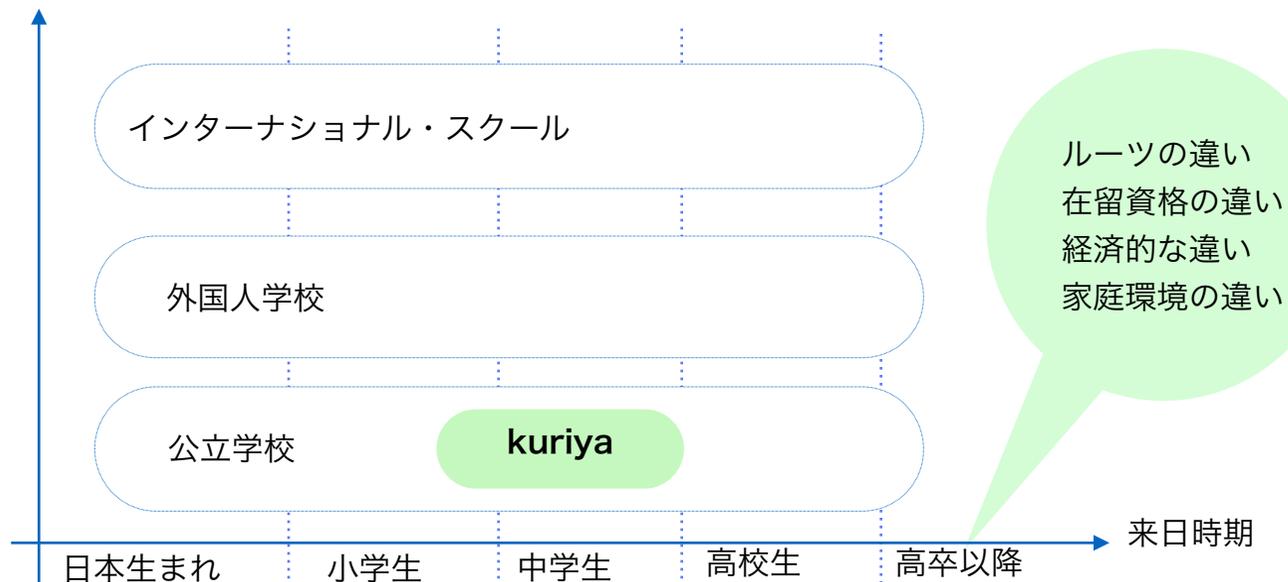
(働くため、学ぶため、家族と共に暮らすため、亡命)

(オールドカマー-old comer、ニューカマー-new comer)

(駐在員、出稼ぎ労働、学生・・・)

## 「外国ルーツ」の子ども・若者たちにも多様性がある

経済的に豊か



kuriyaのターゲット層

中学生の時に来日し、公立学校に通う。比較的、経済的に困難な状況を抱えている。

1

## 外国ルーツの高校生の高い中退率、低い進学率

2

## 外国ルーツの高校生が未来を描けない

日本語指導が必要な高校生数の推移



出典 | 文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の入学状況等に関する調査（平成28年度）」の結果についてより作成

日本語教育が必要な高校生と公立高校生の中退率と進路状況

	日本語教育が必要な高校生	公立高校生	日本語教育が必要な高校生は公立高校生と比べて
中退率	9.61%	1.27%	▶ 7倍以上の割合で中退
進学率	42.19%	71.24%	▶ 進学率は約 6割
非正規就職率	40.00%	4.62%	▶ 約 9倍の確率で非正規就職
進学も就職もしていない生徒の率	18.18%	6.50%	▶ 約 3倍の確率で進学も就職もしていない

出典 | 2018年9月30日 統計局より

## 事業紹介

### 1. After School 定時制高校での居場所づくり

- ・ 2015年9月～現在
- ・ 週1回～3回の放課後部活動として実施
- ・ 留学生、大学生との多文化交流



### 2. Out of School 実践型インターンシップ

- ・ 2017年4月～現在
- ・ 3ヶ月から4ヶ月を1タームとし、週1回参加
- ・ 団体内でのインターンとしてプロジェクトに携わる



### 3. 政策提言

- ・ 高校中退や進路の調査を提案 → 高校中退率や非正規雇用の高さが明らかに
- ・ 高校生のための包括支援体制整備を提案 → 補助事業の一環として実施
- ・ 在留資格「家族滞在」の資格切替の要件緩和を提案 → 一定要件のもと、切替可能に









## 2019年－現在

- ・他団体との連携を通じた支援の充実と展開
- ・現場の課題と仕組み（政策）とをつなぐ

2019年：NPO法人カタリバとの高校生支援・協働事業

2020年：コロナ対応のための市民ネットワーク形成等

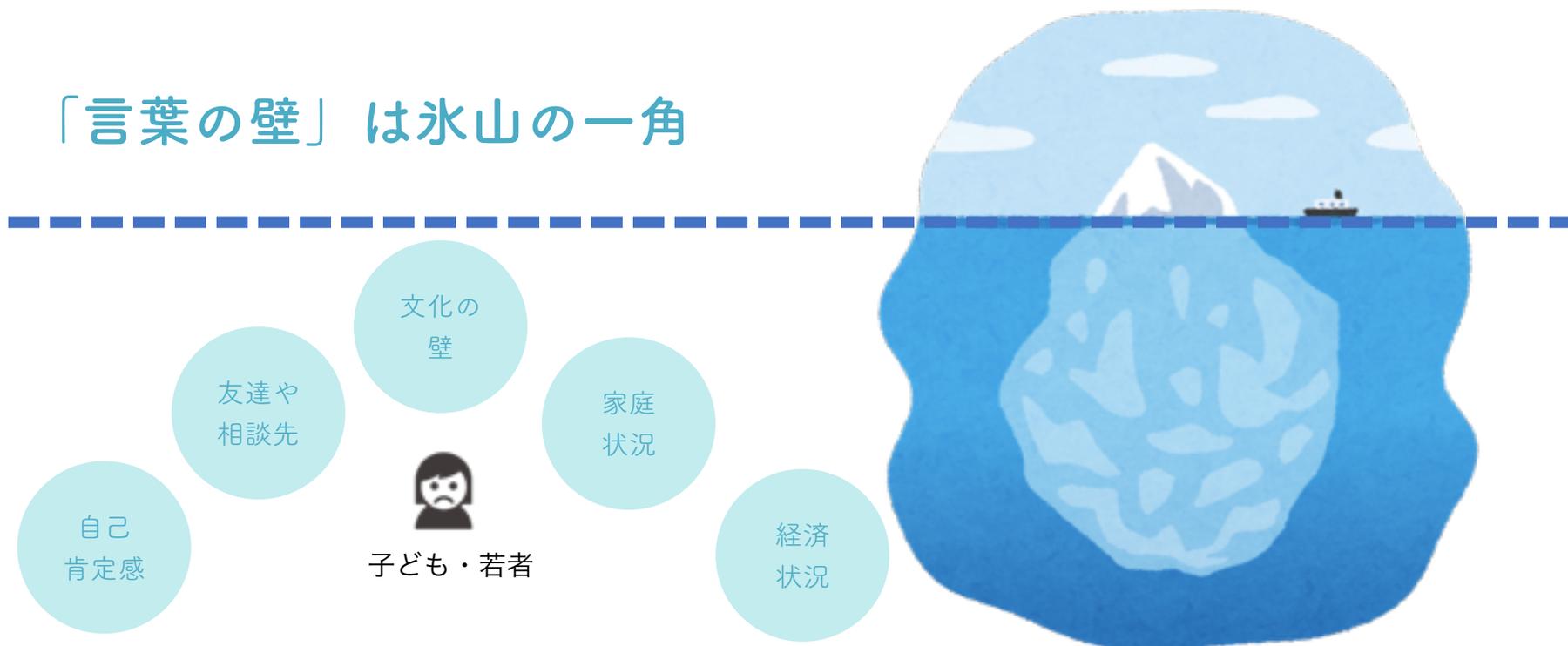
2021年：実態調査・報告書の作成

# 現状と課題

外国ルーツの高校生・若者の教育・就労

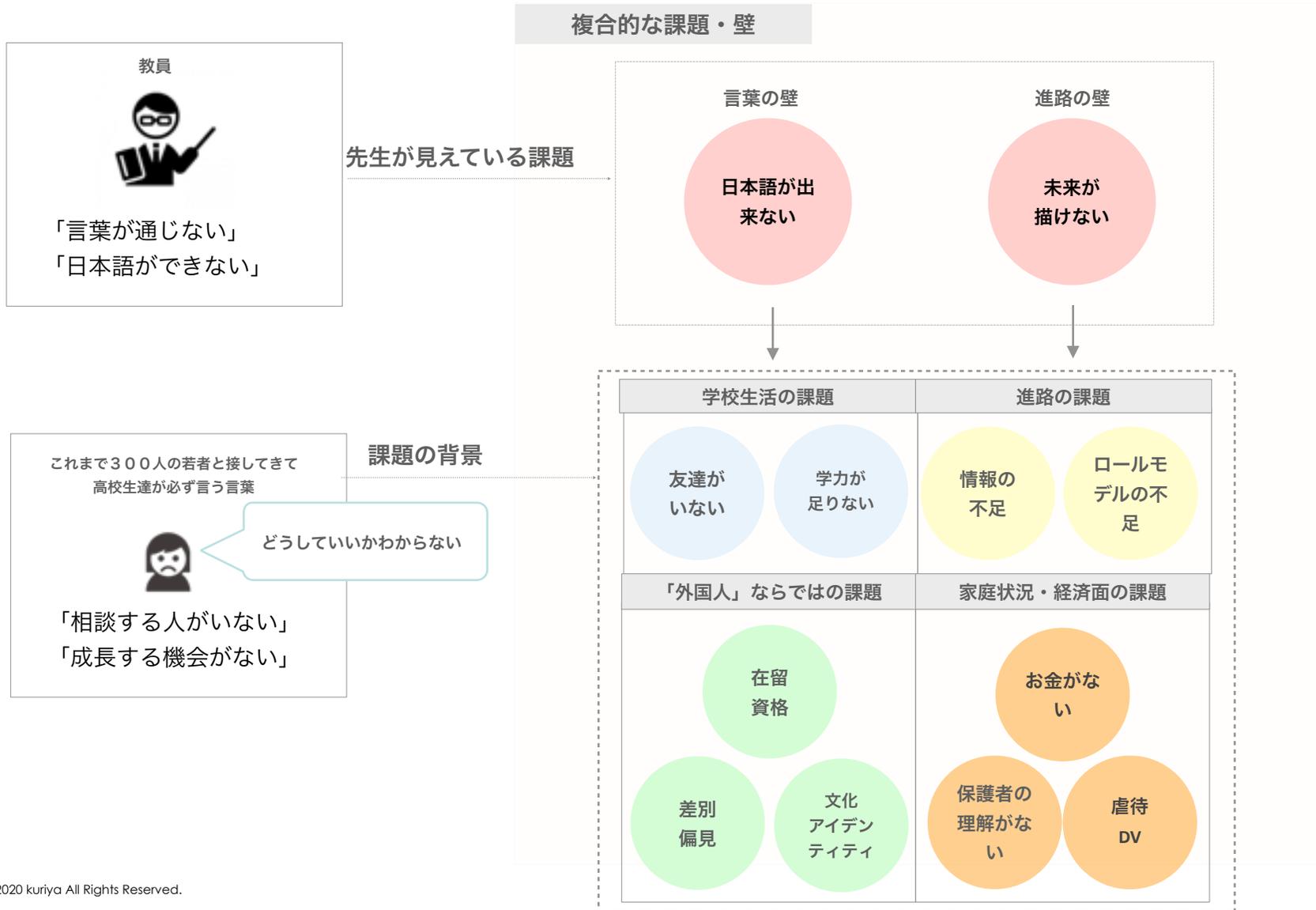
## 在住外国人の課題＝日本語が出来ない

### 「言葉の壁」は氷山の一角



孤立・・・社会とのつながりがない（情報弱者、相談できない）

機会・・・自立するための力をつける機会がない（不安定な立場から抜け出せない）



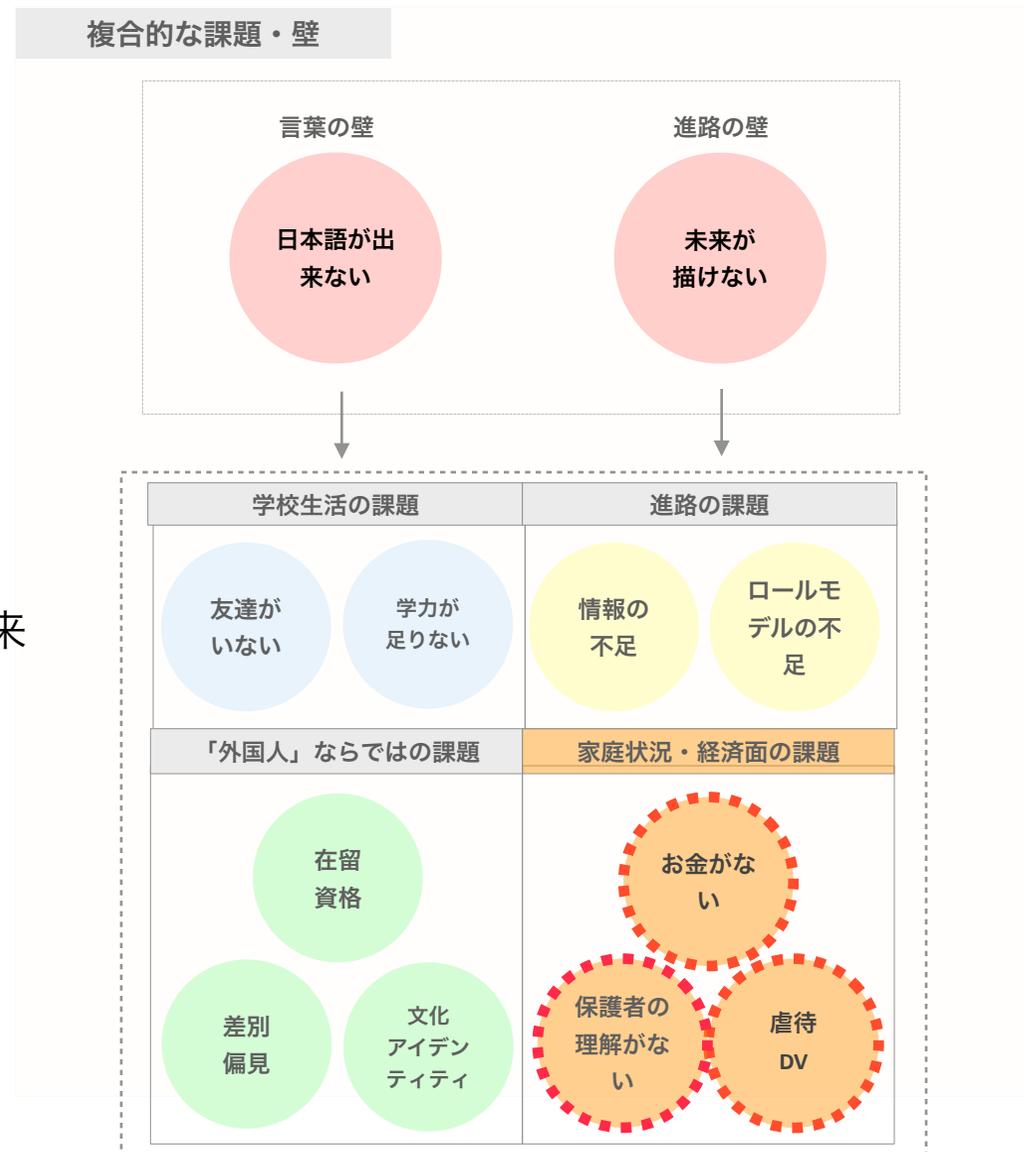
## Aさんの場合



- ・ 保護者からの虐待
- ・ 自殺未遂（学校外）

### →中退、一旦帰国

- ・ 母国と日本とを行き来
- ・ 現在は母国でも高校を卒業できず
- ・ 中卒資格のまま、日本と母国を行き来



## Bさんの場合

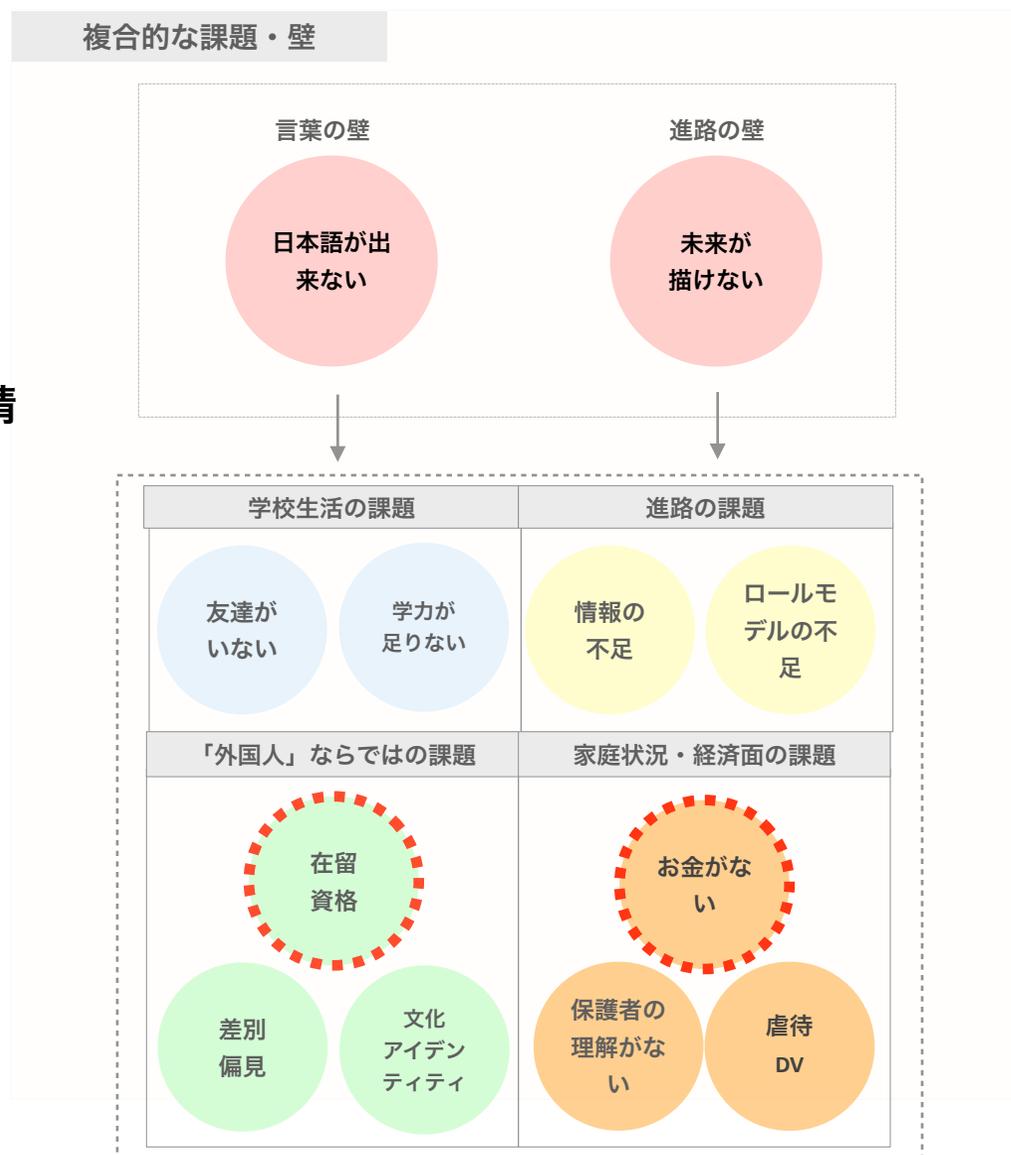


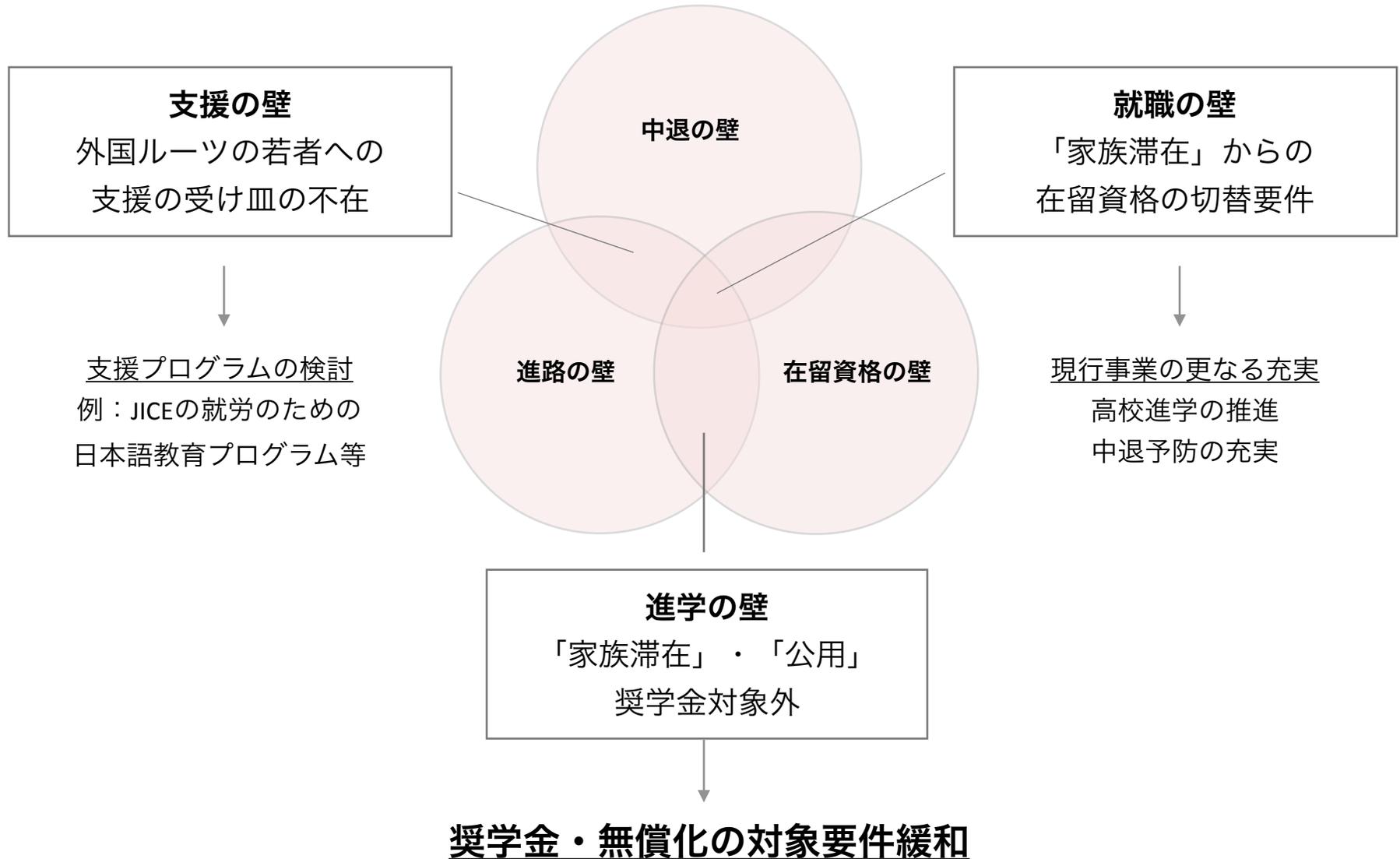
- ・保護者の在留資格が切れる
- ・家族滞在で定時制高校に在籍

### ★ユースソーシャルワーカーに支援要請

### →在留継続・進路決定

- ・教員、ユースソーシャルワーカー、弁護士、NPO等、専門家や多様なステークホルダーとの連携

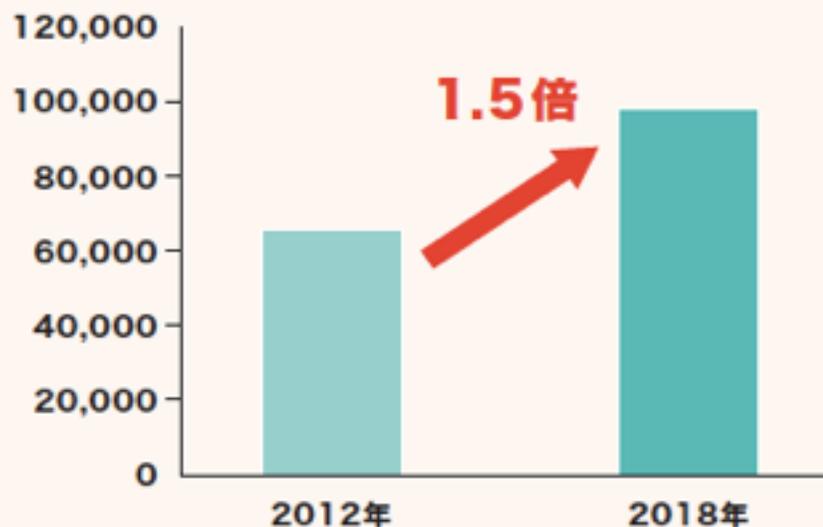




## 在留資格の壁（家族滞在）

- ・0歳～26歳の家族滞在の増加率1.5倍（2012年と2018年を比較）
- ・全体増加率は1.3倍。ネパールが3.4倍、ベトナムが5.5倍（2012年と2018年を比較）
- ・子どもと若者世代で増加傾向にあり、今後も増加が予想される（特定技能による家族帯同）

家族滞在（0～26歳）



家族滞在（2012年・2018年比較）

	家族滞在	2012	2018	倍数
	総数	120,693	159,040	1.3
1	中国	62,374	76,753	1.2
2	ネパール	6,992	23,789	3.4
3	ベトナム	2,374	13,129	5.5
4	韓国	15,117	12,205	0.8
5	インド	5,392	8,029	1.5

在留外国人統計2018年より作成

# 中長期的な取り組み：「誰もが取り残されない」学びの場・支援の場を

## ① セーフティネットとしての学校機能の強化

「チーム学校」の推進を

課題の複雑化

↓  
教員だけでは対応が困難  
外部人材の登用が急務

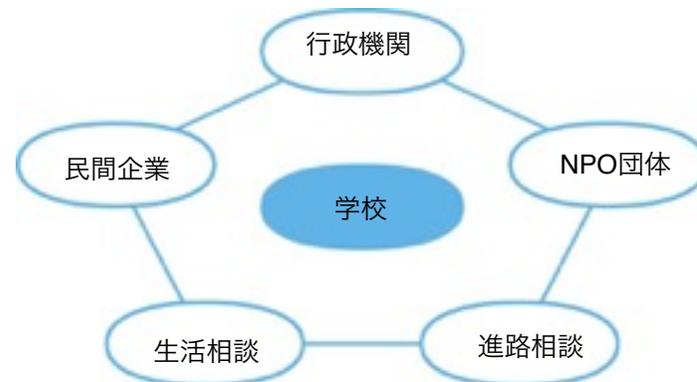
↓  
「チーム学校」の推進



- ・キャリアカウンセラー
- ・進路支援
- ・カウンセラー
- ・メンタルケア
- ・日本語教師/他NPO
- ・社会福祉士
- ・ソーシャルワーカー

## ② こぼれ落ちてしまう若者支援の充実を

学校内外の連携を



中退してしまった若者等の支援の受け皿の検討  
例：JICEプログラムの拡充

### 3つの支援

- ① 中退者への支援 → 受け皿がない・支援策が手薄く、支援プログラムの検討を
- ② 学校内での支援 → スクールソーシャルワーカーなどの支援体制整備・人員の配置の充実を
- ③ 進学への支援 → 「家族滞在」・「公用」はJASSO (奨学金) の対象外。対象要件の緩和を

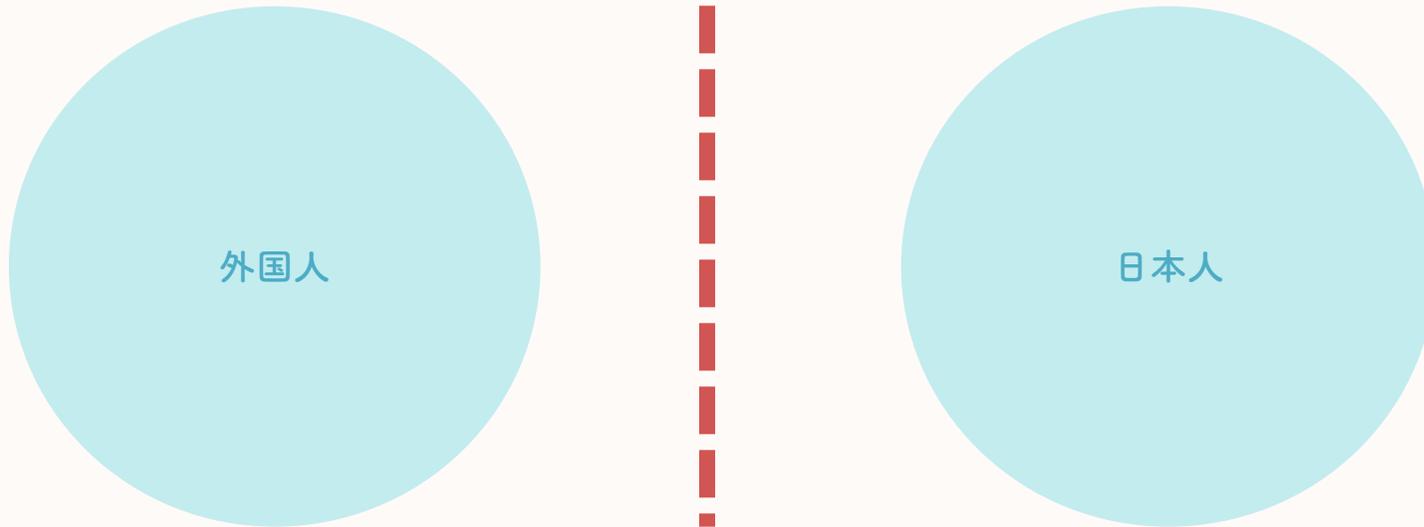


# 現状と課題

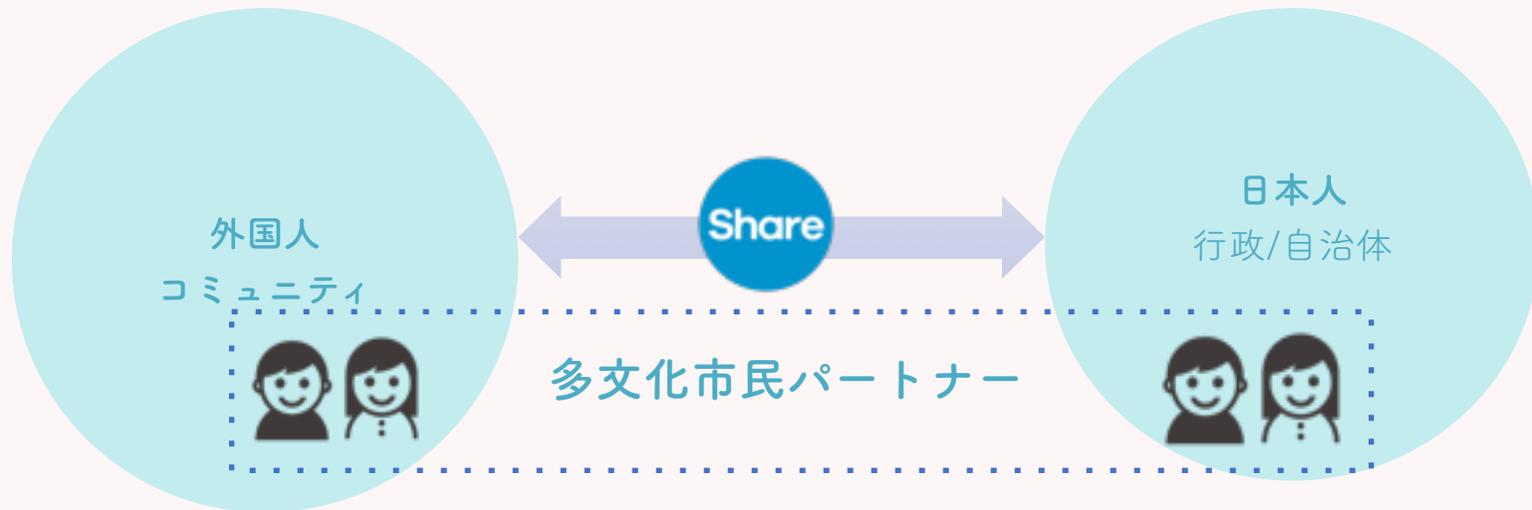
新型コロナの影響・孤立と孤独

- ① 休校が決定してすぐ、アンケートとヒヤリングを実施。

## 外国人コミュニティと日本社会との隔たり



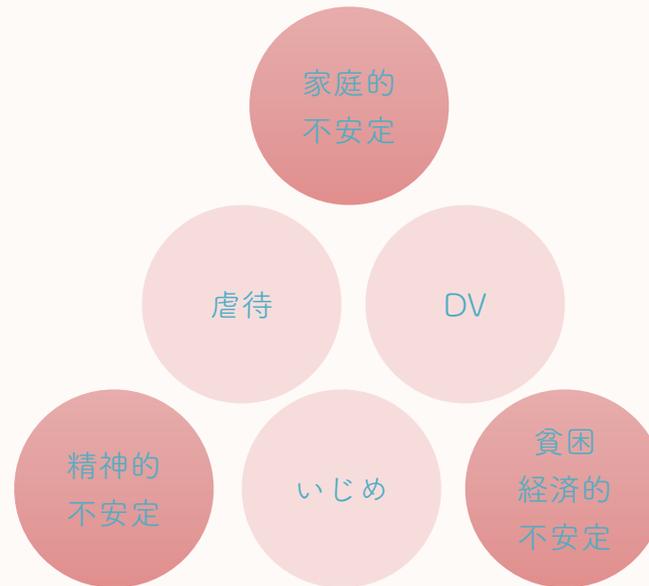
## 緊急時の情報提供ネットワーク



外国人と日本人をつなぎ、必要な情報や当事者のニーズをお互いにシェアする。  
課題を社会にシェアすることで、現状の解決につなげる

② 課題共有の場としてトークイベントを実施。

複合的なリスクの顕在化・深刻化  
(弱い立場にある人がさらにリスクに)

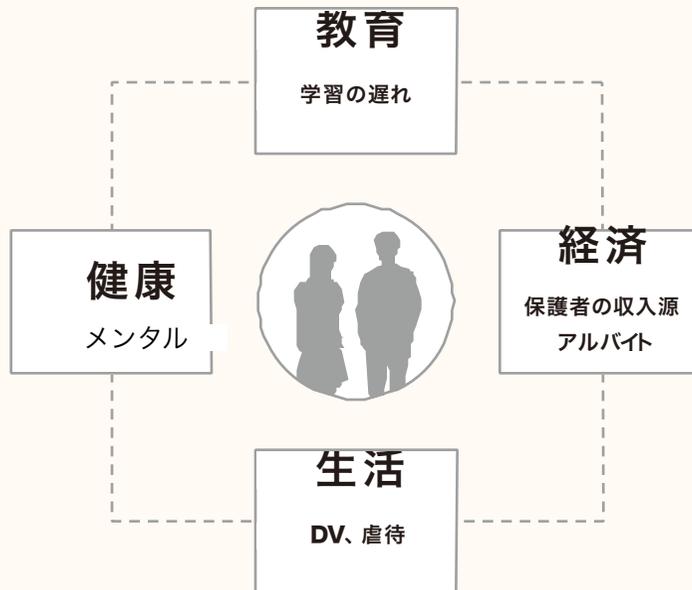


# 新型コロナの影響について

## 外国ルーツの高校生への影響

進学への影響

生活困窮



### 現状

#### 行政による情報提供

- ・多言語化対応（各省庁）
- ・情報のまとめ（法務省）

### 課題

#### 外国人に必要な情報が届かない

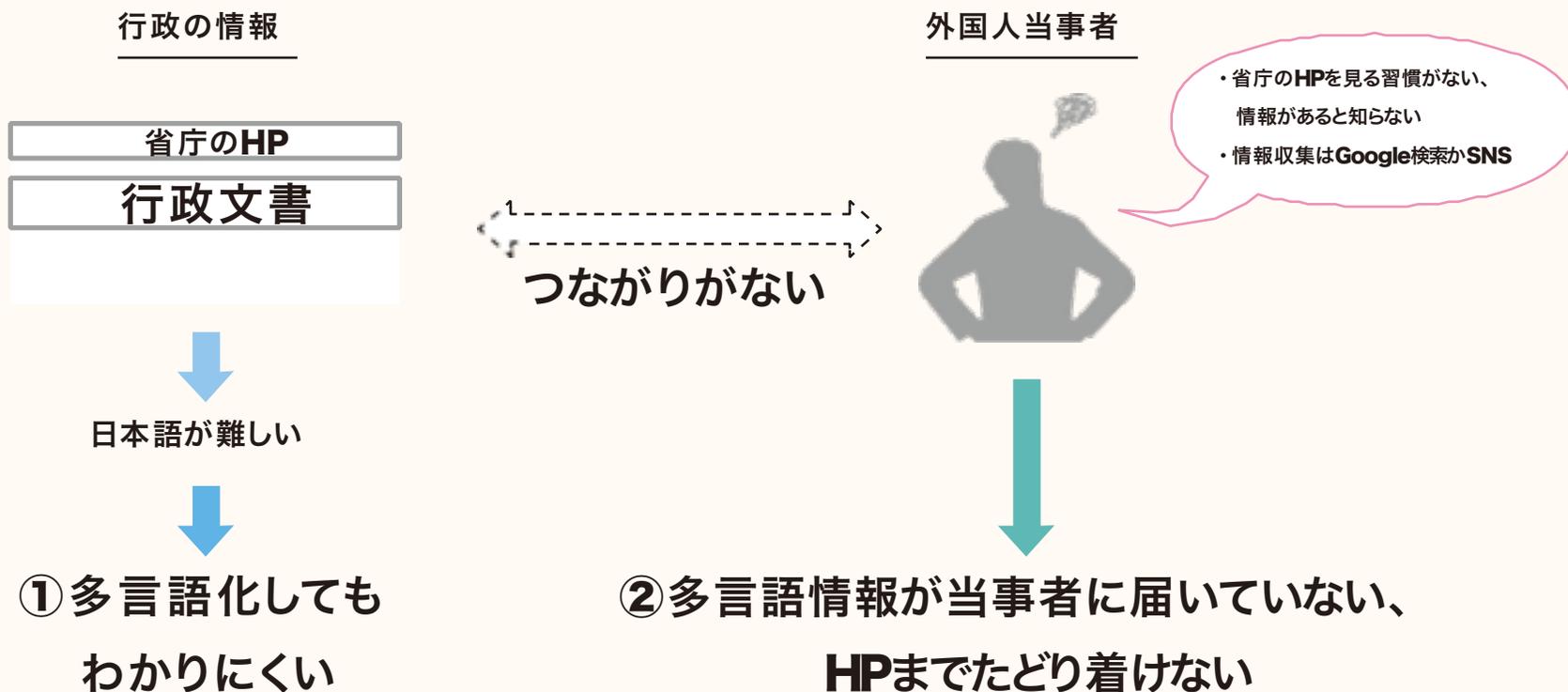
- ・情報が知られていない、わからない
- ・支援策があっても受けられない

課題

外国人が情報弱者となり、必要な支援が受けられない

①情報が伝わりづらい → 行政文書の難しい日本語は、訳しても理解が難しい

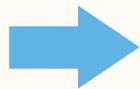
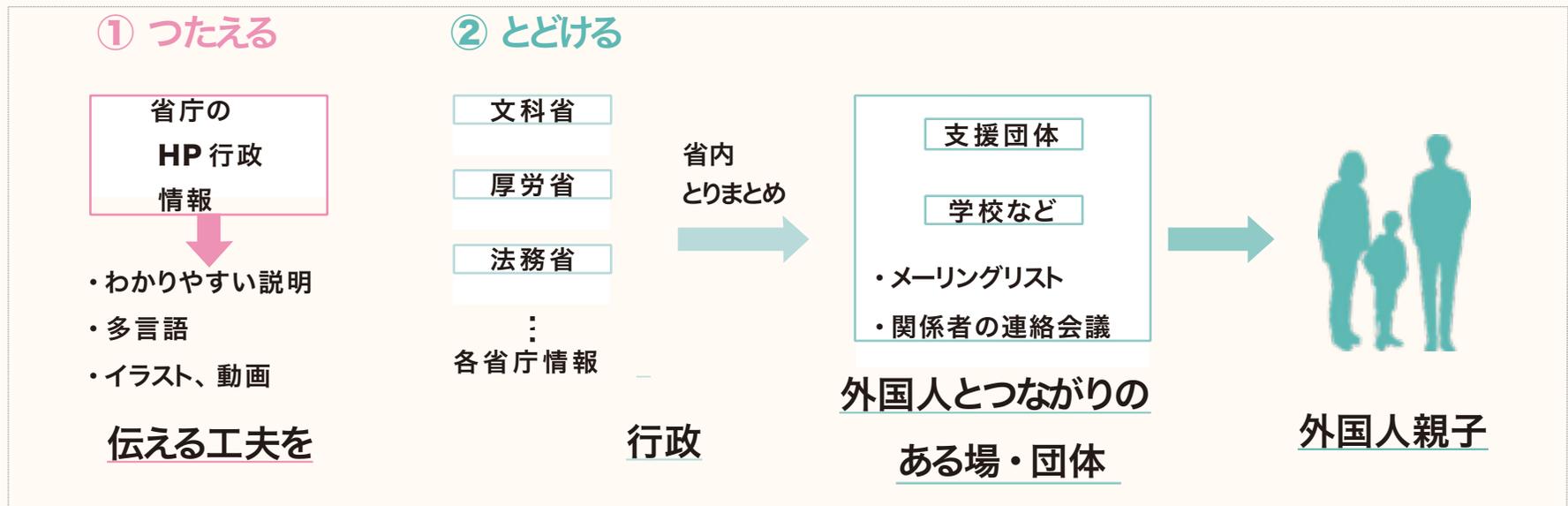
②情報が届いてない → 外国人の情報収集方法は、主に**Google**検索か**SNS**



## 提案

## 外国人に情報をとどける仕組みづくりを

- ① つたえる (短期) → わかりやすい日本語、多言語、イラスト・動画などで伝える
- ② とどける (中期) → 省庁間や支援団体・学校等との連携で届ける
- ③ そなえる (長期) → 震災や台風など、災害時の情報提供をネットワーク化し備える



災害時の子供を支える  
ネットワーク化

### ③そなえる

- ・実務者レベルでのネットワークづくり (行政・支援者・当事者関連携)
- ・安全安心な場としての学校の位置付け (避難所 + 情報提供の機能)

## 提案

# コロナ下における外国人の孤立の顕在化

### ①外国人の孤立・孤独の実態把握を

現状：イギリスの調査報告書 → 外国籍等住民・難民の58%が「孤立が最大の課題と感じる」

課題：日本での調査 → 外国籍住民等マイノリティの観点から大規模調査は、なされていない。

提案：実態把握のタスクフォースにて、外国人等も項目の一つとして取り上げて頂きたい。

### ②スクールソーシャルワーカーの登用を

現状：文科省の個別施策 → スクールソーシャルワーカーの活用について言及

課題：数 → 複数校を掛け持ちし、週1回ほど巡回。 質 → 社会福祉士から元校長先生まで、対応の格差。

提案：数 → 増加を検討（例）香港は各学校に1人スクールソーシャルワーカー。 質の担保 → 統一の基準を検討

### ③既存の仕組みの多文化対応化を

現状：外国人が生活相談や支援を受けたいと思っても、どこにつながれば良いかわからない。

課題：外国人も対象という意識が支援団体や行政担当者に生まれにくい

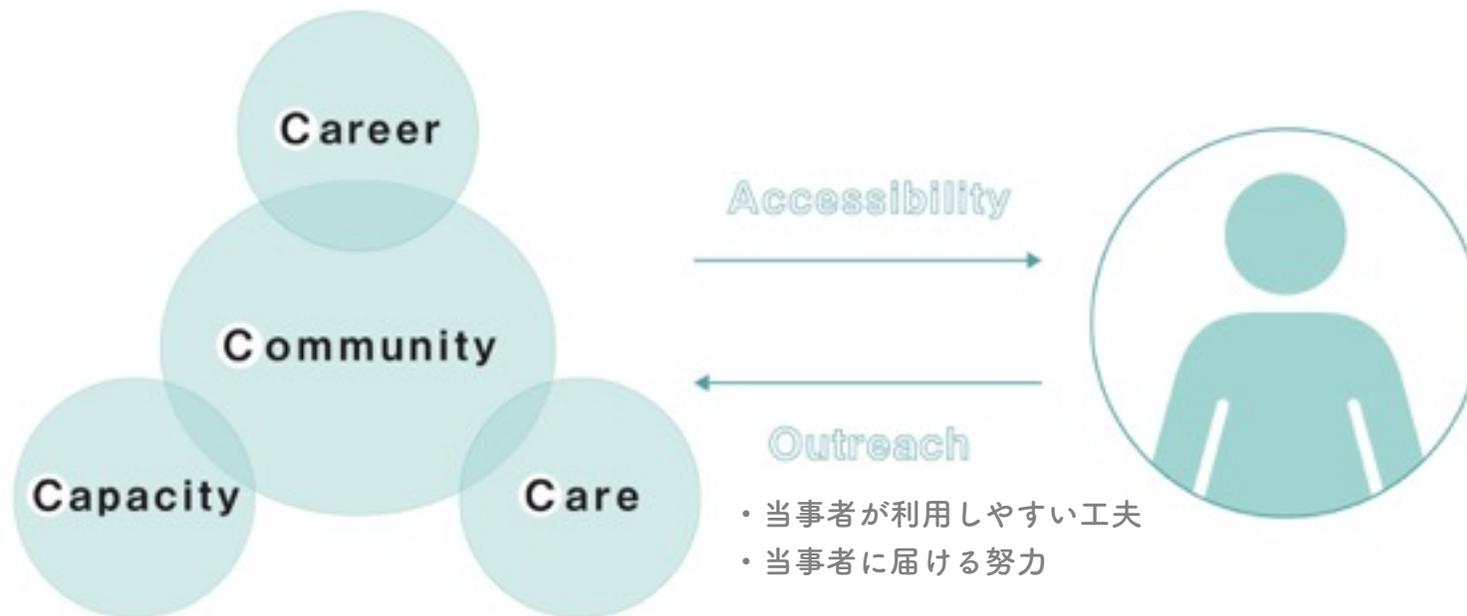
提案：既存の支援制度や福祉の仕組みに、ダイバーシティ対応を推進

**「誰もが取り残されない社会」、そして「誰もが取り残されない学びの場」を**

# 今後の支援

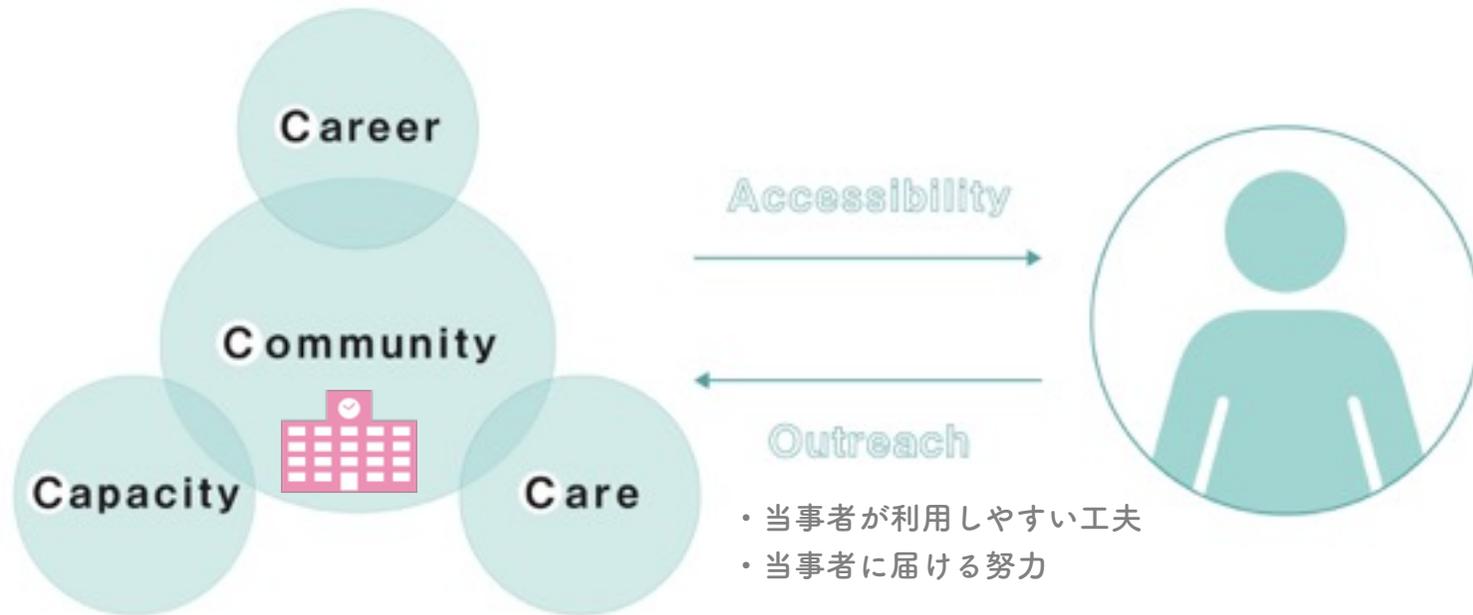
活動を通じて感じたニーズ

## 多文化共生のための包括的な支援体制（4Cモデル）



- |           |                        |
|-----------|------------------------|
| Care      | ・ ・ ・ 福祉、法律、心理など専門的な支援 |
| Capacity  | ・ ・ ・ 日本語、スキルなどの開発・育成  |
| Career    | ・ ・ ・ 就労・進学などのキャリア     |
| Community | ・ ・ ・ 相談できる場、安心できる居場所  |

## 多文化共生のための包括的な支援体制（4Cモデル）



Community

・・・学校：相談できる場、安心できる居場所

Care

・・・ソーシャルワーカー、弁護士等：専門的な支援

Capacity

・・・日本語教育等：日本語、スキルなどの開発・育成

Career

・・・キャリアカウンセラー等：就労・進学などのキャリア

## 今後の支援：活動を通じて感じたニーズ・質問事項への回答

- ①専門的人材の育成→生活相談の充実を
- ②日本語プログラム・オリエンテーション→N2レベル・アウトリーチ型の情報発信を
- ③日本語教育の推進→若者への日本語教育についての実態調査
- ④全般→多文化対応（ダイバーシティ対応）の推進

### 現状と課題

①言葉の壁 日本語教育の地域格差

②進学の問題 在留資格が奨学金の対象外

③中退の問題 高校中退者等の支援が手薄

④偏見の問題 学校内外での差別・偏見

⑤国境の問題

日本の情報がわからない  
帰国後日本語を忘れてしまった

### 検討事項・提案

居住地に関わらず高校3年間で日本語が出来るように

「家族滞在」等も一定要件の元、**JASSO**奨学金、無償化対象に

若者支援の事業での多文化対応推進を（例：JICE、サポステ等）

学校向け多文化共生ガイドライン作成・管理職向け研修

来日前の情報提供やオリエンテーションの検討  
帰国後の日本語学習の推進

2030年SDGsまでに「誰もが取り残されない」学びの場を  
生まれや生い立ちに関わらずに輝ける日本社会へ





ご静聴、ありがとうございました

# 質疑応答

# 参考資料

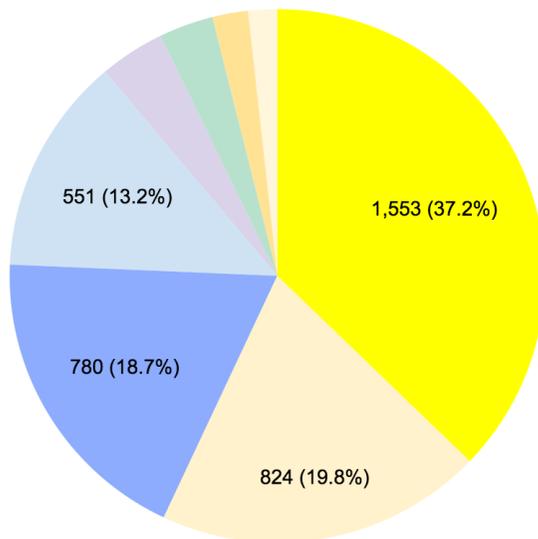
データ・事例等

# データから見る外国ルーツの高校生

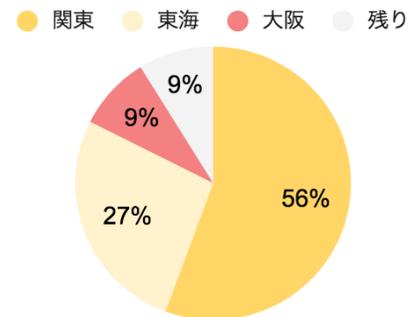
- ・700人台の神奈川と東京、300-400人台の愛知・大阪、200人台の千葉・埼玉・三重を合わせると7割強になる。
  - ・100人-199人台（静岡、岐阜、群馬、茨城）で13.2%。上記と合わせると8割に。
- ※人数の多い地域と散在地域との格差解消も課題

## 人数別分布

- 700人台(神奈川・東京)
- 300-400人台(愛知・大阪)
- 200人台(千葉・埼玉・三重)
- 100人-199人台(静岡・岐阜・群馬・茨城)
- 50人台(滋賀・兵庫・長野)
- 20-40人台(栃木・北海道・福岡・広島・京都)
- 10-19人台(奈良・福島・新潟・福井・和歌山・山梨・岡山)
- 1-9人台(長崎・沖縄・石川・島根・鹿児島・宮城・山口・熊本・徳島・秋田・鳥取・青森・山形・愛媛・大分・富山・佐賀)



## 日本語指導が必要な高校生の数 地域別分布分析



※人数の多い地域と散在地域との格差解消も課題

※関東地域で約5割。東京都は英語（タガログ語）・中国語で約3/4

# ケースから見る外国ルーツの高校生

「外国ルーツ」と言っても多種多様なパターンがある

## 【様々な要素】

国籍：外国籍・日本国籍

来日歴：日本生まれ・日本育ち

母語：タガログ語・日本語・

在留資格：定住者・家族滞在

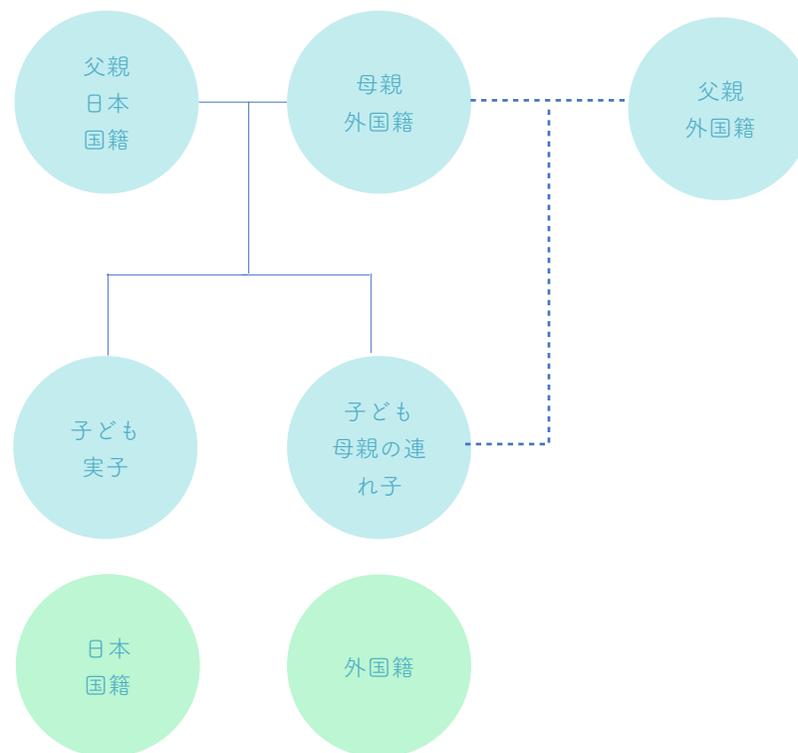
文化、宗教、・・・

## 【個人でも捉え方が異なる】

アイデンティティ

生育歴

日本人？外国人？

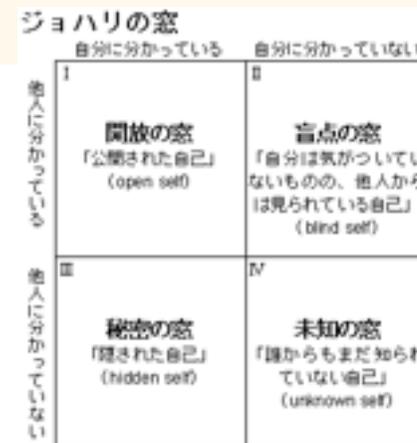


# ケースから見る外国ルーツの高校生

→総合的に判断した結果、どのようなサポートをこちらがすればいいのか？

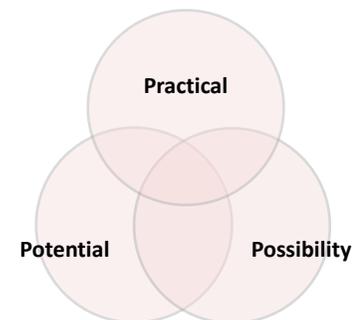
## 課題は何か？

- ・本人が直面している（認識している）課題
- ・本人は認識していないが、これから予想される課題
  - 本人が課題について話そうと思える（関係性の構築）
  - 本人が予想される課題を認識する（中長期的な視点の付与）
  - 本人が抱える課題を可能な限り想定する（リスク把握）



## 可能性は何か？

- ・本人が抱える資質や伸ばせそうな強みは何か？
  - ・本人にどんな選択肢が現実的にあるのか？
    - 本人が自らの資質(Potential)に気づき、将来の選択肢 (Possibility)を考え現実的 (Practical)な選択肢を選ぶ事ができる。
- ※Will (やりたい事、夢) の陥りやすいワナ



## どう対応するか？

- ・本人は何を求めているのか？
- ・こちらは何をすると良いと考えているのか？
  - 本人が必要としており、こちらがすべきだと考える事が一致している



国別・年齢別で見ると女性の比率が高い国籍や年代がある

女性比率が80%以上

フィリピン、タイ・・・ 40代後半以降

台湾・・・ 50代後半、60代

ロシア・・・ 30代後半から40代後半

	人数	男性	女性	女性比率
<b>総数</b>	2,829,416	1,387,401	1,442,015	51%
フィリピン	277,409	83,231	194,178	70%
台湾	61,960	20,675	41,285	67%
タイ	53,713	15,631	38,082	71%
ロシア	9,109	2,980	6,129	67%
コロンビア	2,488	962	1,526	61%

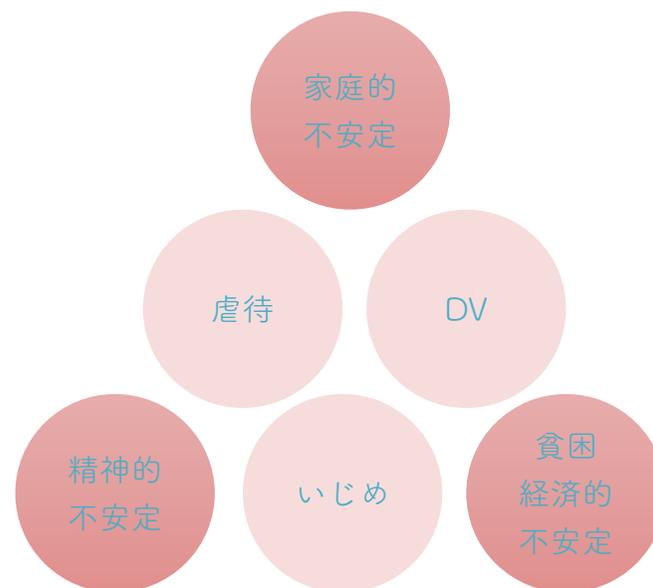
(法務省「在留外国人統計」2019年6月末時点より、kuriyaが独自に作成。)

## 在住外国人の女性が抱える課題

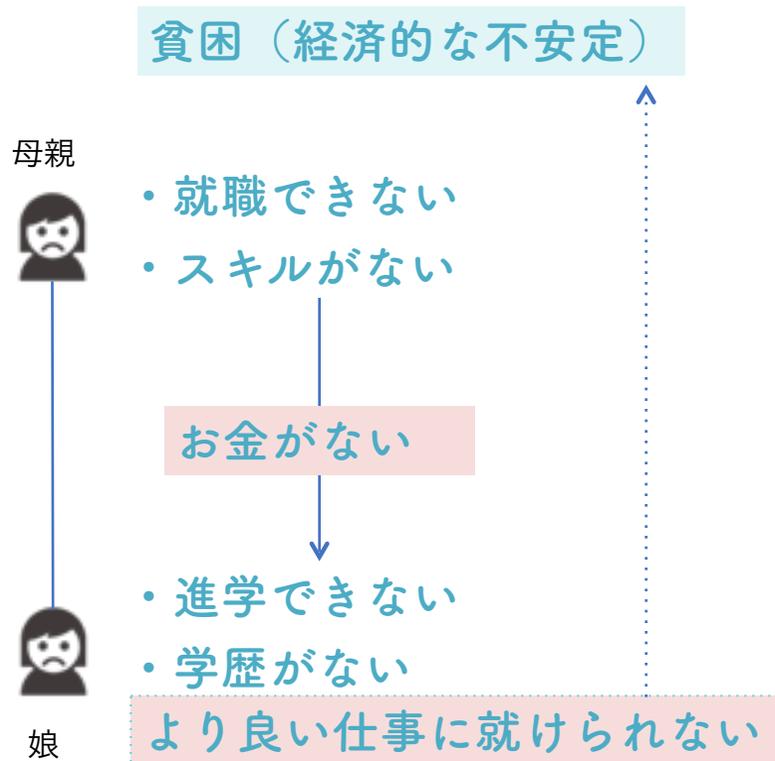
外国人であることによるもの ×

複合的な要因

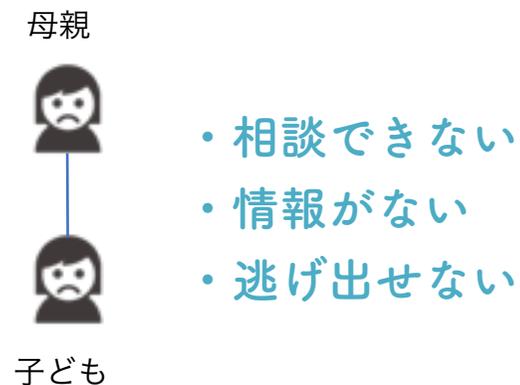
1. 言葉・文化の壁
2. 在留資格の壁
3. 心の壁（人種差別・偏見）



## 事例



## 暴力（DV、虐待、いじめ）



精神的不安定、トラウマ、  
自己肯定感の欠如

## 外国人の女性を支える支援のあり方

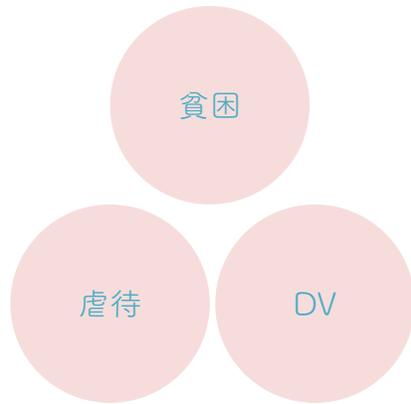
### ①縦と横からの支援

#### 縦：世代間の連鎖を断ち切る

母親



子ども  
(娘)



#### 横：ライフスパンでの支援

